

# 「子どもたちと関わる活動に興味があるワカモノのための ボランティアセミナー～入門編～」

- 趣 旨**：ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を学ぶ。また、今後のボランティア活動についての意識を高め、青少年教育施設や地域社会等で活動できるボランティアを育成する。
- 日 時**：平成29年6月3日（土）12：30～4日（日）16：30
- 場 所**：国立淡路青少年交流の家
- 対 象**：子どもたちと関わるボランティア活動に参加したい、もしくは興味のあるワカモノ 40名程度
- 参加者**：32名
- 講 師**：株式会社大塚製薬工場 川本安紀子 氏
- プログラムの内容**：



## 1日目

### 12：50～ 開講式・チェックインミーティング

交流の家職員によるアイスブレイクからセミナーが始まった。緊張の表情を浮かべながらも、積極的に関わろうとする参加者が多く、楽しい雰囲気ですべての参加者がスタートさせることができていた。

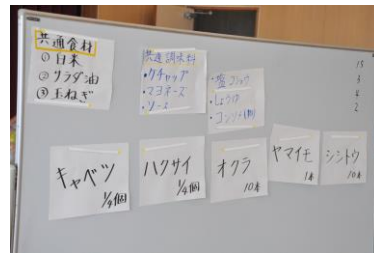


### 13：40～ 野外炊飯（食材争奪戦）

交流の家で子ども達に提供しているアクティビティの一つとして、野外炊飯を体験してもらった。

今回は運営ボランティア進行のもと、遊びリンピックなどのゲームで勝負し、チームで限られた食材を獲得する「食材争奪戦」を行ってからの野外炊飯であった。

各チーム、手に入れた食材を駆使して、「チキンと夏野菜のカレー」や「焼きおにぎり」など普段淡路の野外炊飯では目にすることのないオリジナル料理に挑戦していた。調理が進んでいくうちに、徐々に参加者から笑顔が増えてくるなど、緊張がほぐれてきた。



### 18：30～ 講義『青少年教育施設について』

各グループに分かれて、青少年教育施設と「学校との違い」や「ホテルとの違い」について考えた。「宿題がない」、「部屋にテレビがない」、「他団体やいろんな人との交流が多い」、など様々な意見が交わされた。意見をまとめ、活動内容以外にも教育のための様々な仕掛けが施設に施されていることを付け加えて解説し、青少年教育施設について理解を深めてもらった。



## 20:10～ 教育事業『活動紹介』

淡路の代表的な3つの教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」、「AWAJI未来探検隊」、「親子ちゃれんじ」について、実際に教育事業に携わった人達（運営ボランティア、参加者の中の法人ボランティア）に事業の紹介をもらった。それぞれの事業の魅力ややりがいについて生の声で熱く語ってもらったことで、多くの参加者が淡路の活動に興味を持ってくれたようである。

また、今回の参加者の中には、小学生時代「第1回ジュニアチャレンジ淡路島一周」に参加していた人が含まれていた。「当時のリーダーさんのことは今でも忘れられない。自分もリーダーとして関わってみたいと思って今回参加した」といった話も出るなど、ボランティア活動が世代を越えて循環している状況が生まれた。



### 2日目

## 9:00～ 『安全管理講習』

安全管理講習ではボランティア活動に携わるにあたって重要な「リスクマネジメントについて」、「熱中症について」、「救命救急講習」の3つの内容を、講義や実技によって学んでもらった。

今回初めて、大塚製薬工場から「熱中症について」の講師として川本氏を招いた。水分補給のメカニズムや、子どもが熱中症になった場合の対処法など、実践的な内容に参加者も「もっと色々教えてほしかった」などの声が上がっていた。



## 13:00～ 『ボランティアとは?』

「ボランティアは誰のため?」というテーマで意見交換をした。「自分のため」や「人のため」といった意見だけでなく、「経験」、「交流」、「地域」など、様々なキーワードが出てきており、参加者は自分にない考え方にも目を向けることで、大きな刺激を受けた様子であった。

セミナーの最後には、新たな仲間との別れを惜しむ姿が印象的であった。



## 8 参加者の声

- 他の地域や年齢の違う人たちがいて、非常に勉強になった。
- 実践や体験が多くて、思っていたよりも有意義な時間を過ごすことができた。
- 自分のやりたいと思えることを見つける機会になった。
- 一人で参加したので初めは誰とも話さず終るつもりだったが、たくさんの人が話しかけてくれたおかげで楽しく参加することができた。
- グループワークを通して年代の違う方々と意見交換をすることができ、より気づきが深まりました。

## 9 所感

- 昨年度まで外部講師にお願いしていた時間のほとんどを、今回交流の家の職員で講義・指導ができたことは大変意義深い。
- 初めて会う人とも関わることに向き参加者が多かったため、とても雰囲気の良い研修会になった。
- 参加してよかったという声が多かった。初めて淡路に来て緊張している参加者も多かったが、運営ボランティアと参加者の中にいた法人ボランティアがうまくリードしてくれたおかげで、セミナー初参加の参加者も自然と馴染んでセミナーに取り組むことができた。
- 交流の家でも中核を担っている運営ボランティアが、食材争奪戦の進行や活動紹介時に参加者の前に出たことで、運営ボランティア自身のスキルアップにもつながった。